

サンシャイン渡辺

嵐晶砥介

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ラブライブ！サンシャイン！！イエエエエエエエ！！

渡辺曜ちゃんの夢の中を描く、ギャグ短編集です。あくまで息抜きのため、不定期更新で………完結しました！！！！イエエエエエエエエエエツツ！！！！

# 目次

サンシャイン渡辺	1
野○村さんなヨシコちゃん	3
ドラゴンルビイ	7
第九感の使い手ちかつち	10
とつとこハグヤロー	13
クール千歌	18

## サンシャイン渡辺

今日からアアアア！イエアツ、a q o u r s！サンツシャイン！渡辺！

イエエエエエエエ！！

\*\*\*

どおーもっ！！空前絶後ノオ！超絶怒涛な a q o u r s のスクールアイドル！

制服を愛し制服に愛された女ああ！！

セーラー、ブレザー、ロツソネロ、すううべての制服の生みの親ああ！！人呼んでココ・シヤネル10代目の三回転半抱え込みファツシヨンの生みの親アアアア！！

そう私こそはアツ！……例えこの身が朽ち果てようと……制服を求めて魂を燃やし、燃えた魂は星となり見るもの全てを制服でヨーツロオオオオ！！

みんなご存知そうっ私こそはあーっ！！

……サイツキョー無敵のスクールアイドルツツ！

あまりのポテンシャルの高さにチカちゃん、リコちゃん、ハナマルちゃん、ルビイちゃん、カナンちゃん、マリさん、ダイヤさん及びヨシコちゃんを除く内浦在住の全ての人間から命を狙われている女アアアア！！

……：そおうっ私こそはアア！テエエンカ無双のスクールアイドル！

あの天下一の渡辺を決める大会、ラブ渡辺ツデエエエ！サブマリント法とか戦場カメラマンとかAKBのツインテ担当を抑えたセミファイナリストオオオオ！！

そおっ、この私はア！

……身長157センチ、体重はヒミツだけどスリーサイズは上から82ツ57ツ81イイイッ！！

長所は元気な美少女なところオオオオ！短所は要領良すぎなト

コオオオオ!!

制服界に舞い降りたギャングオブヨーソロオオオ!!

そおう、この私はあー!

……四月十七日生まれえ!出身地はお母さんツ!家族構成ツ父・ポ  
セイドン渡辺エツ!母・ガイア渡辺エツ!兄はいなあああいッ!!

そおしてつ、みんなお待ちかね長女で末っ子!

この私はあー! a q o u r s ! サンツツシャイン! ワツたしの夢  
はアアアア! 駿河フェリーで船長やつてる父・ポセイドン渡辺の跡を  
継ぐことおおおおおお!!

父の月給百万円! 貯金残高五百六十二万八千二百円! キャツシユ  
カードの暗唱番号4036! 沼津市在住の方々あつ! 今がチャンス  
でエす!!

もう一度言います! 4036オ! ヨーソローツて覚えてくださあ  
いッ!! i P h o n e のパスコード4036オ! ヨーソローツて覚え  
てくださいあい!!

そおう、父親の全てを曝け出したこの私はあー…… a q o u r s ツ

!

サンシャイイイイイン!!

渡ツ辺ツ!!!

……ツイエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエ  
エエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエ  
エエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエ  
!!!

ジャステイス!

\*\*\*

という夢を見たんだ! つて、

千歌ちゃんと梨子ちゃんに話したら、意外と似合うかもって神妙に  
言われて、一日中へこんだ。

## 野○村さんなヨシコちゃん

また、夢を見た。

\*\*\*

墮天した衣装の、墮天使ヨシコちゃんがいた。

何やら、私の前で何かを始めるともりであります。

「よくぞ召喚されたし、我がリトルデーモンよ。暗澹たる黒き魔術の契約に従い、我の叡智を傍聴する権利を授与しよう。

それでは先ず、そこに墮ちている黒檀の異装を身に纏い墮天せよ」

「……えっと、何言ってるかよく分からないから、後でもいいかな」

「今、身に纏いなさい」

「今じゃないとダメ？」

「……身に纏いなさい？」

「こわいこわいこわい、何だこのヨシコちゃん。私は仕方なく、黒いローブを羽織るのであります。」

「というわけで聴きなさい……。私の愚痴を」

「拍子抜けすぎる」

「……」

私のひねりのないツツコミを無視し、ヨシコちゃんは興奮気味に語り始めたのであります。

「私ね、普通の高校生として、なんというかね、中二病が恥ずかしいって指摘はちゃんと受け止めて、それなりに取り繕って過ごそうとはしているけど。」

とにかく私の中の『墮天使』という大きな要素の、社会的有害性を顧みれば、指摘はしつかり受け止めなければ、一生非リアのまま人生終えると思うんですよ！

でも、私は墮天使だから……小さなデーモン……リトルデーモンたちが大好きで大好きで……ですから、非リアなのがもう申し訳なくて」

よく分かんけど、なんか可哀想な雰囲気であります。

「こんな墮天使だから、リトルデーモンの皆様。

私も死ぬ思いで、もう死ぬ思いでもう、あれですわ。

一生懸命に墮天に墮天を重ねて、見知らぬ人間にドン引きされて、やっとリトルデーモンの皆様に認められて名声を博したワラワラ動画の生主であるからこそ、こうやって世間の白い眼に晒されるのが、本当に辛くて、情けなくて、リトルデーモンの皆様に申し訳ないんですよ」

ヨシコちゃんの唇が、ワナワナと震え出し、今にも泣いてしまいうであります。

あ、ついに涙がこぼれたであります。

「ですから……世間様のご指摘を丁寧に受け止めて、墮天使という小さな、クツ、カテゴリに比べたラア……ラア、ブッフファアーツ!!」

え、ちよ、よ、ヨシコちゃんの様子が！なんと彼女、突然地べたに這いずって喚き泣き散らしはじめたのでありますううう!!?

「ダアツ、だ、墮天使ヨハネ、ダツツテンシヨハネの、活動ノオオーツ、ウエエ折り合いをつけるーってコトデ、もう一生懸命ほんとに、邪気眼発症、中ニイイイ病ツハアアアアツ!!」

中二病という病はー！私のみなウワツハツハーーン!!私のみな

らッハアアアア！私のみならず、非リアにありがちな不治の病じゃないですか！！

そういう問題ヒョオツホー！！解決ジダイガダメニ！

私ハネエ！ブフツフンハアアア！！

誰がね？え！非リアが誰にリア充になりたいいつでもオンナジヤ、オンナジヤ思っでえ！！

ウーッハツフツハーン！！ツフーン！ずっと墮天してきたわけですよ！せやけど！変わらへんからそれやったらワダチが！リア充になつて！文字通り！アハハーンツ！！命懸けでイエーヒツフア  
ゝー！！！！

ウツ……クツ。曜先輩！あなたには分からないでしょうけどね！平々凡々とした非リアライフを送って、本当に、「非リアがリア充になりたいいつでも一緒に、非リアがリア充になりたいいつでも」じゃあ私がああ！！リア充になって！

この世の中を！ウグツブーン！！ゴノ、ゴノ世のブツヒイフエエ  
エーーンン！！！！

最早、意味不明であります！

「ヒイエーッフウンン！！ウウ……ウウ……。アゝーアゝゝッアゝ  
ゝー！！！！

ゴノ！世の！中ガツハツハアン！！アゝー世の中を！ウ変えダイ！！その一心デエエエ！イヒーフーツハウ！一生懸命墮天して、墮天使に、縁もゆかりもないリア充に認められて、リア充ライフ謳歌したかったんですううう！！」

「分かった、分かった分かった！分かったから少し落ち着いて……」

「はあ、はあ……」

陰惨たる無様を詫びよう。リトルデーモンよ、あーもうっとりあえず私おうちかえるー！ウワツハーン！かえるナツシイイイー！ホワアアア！！梨汁プシャー！！！！



ひぎやあああつ本格的にヨシコちゃんが壊れたああ!!?

いろんな意味でヤバい、なんか危険でありますうう!!逃げないと！  
逃げないとおおお！

\*\*\*

そして、いつの間にか世界がぼやけ、私は目を覚ましたのであります。

なんだか、ヨシコちゃんに謝らねばならない。そんな責務を感じた朝でした。

## ドラゴンルビイ

多分、私は疲れているのかもしれない。

\*\*\*

「おいそこのヨーソロー」

「え、ルビイちゃん？なんかキャラが」

「うゆ、もっと強くなりてえ」

「え？」

「強くなって海賊王になります」

「いや、意味がわからん」

「高き理想には常に不理解が付きまとう。うゆは泣かない」

「ルビイちゃんが壊れてる」

ダイヤさんが滑り込んできて、ルビイちゃんの前に立ちはだかったであります。

「ルビイ、貴女の覚悟、しかと受け止めましたわ。ですが、海賊などという黒澤家の名に汚泥を塗す如き所業を見過ごすわけには、長女として、断じてできません」

「おめえ、うゆに逆らう気か？」

「くつ、これが『週間少年ジャンプの暗黒面』に呑まれた者の末路とでもいうのですか……！仕方ありません、かかつてきなさいルビイ。姉妹の格の違いを教えて差し上げます。そして私は、貴女を救う！」

意味不明であります。

「強い言葉を使うなよ、弱く見えうゆぞ」

「ふっ、上等！ズームパンチ！」

「ぴぎ た あ」

「やったか!？」



「ブルアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア!!」

なんと。ルビィちゃんのスタンドのラッシュユでダイヤさんがぶっ飛んだであります。

「ピギイプラチナ」

「そんな、ダイヤーさん!!」

駆け寄る私に、ダイヤさんもといダイヤーさんは、最後の力を振り絞って言葉を……

「ぴ、ぴーなつつばたー………ガク」

いや、なんだその遺言は。

\*\*\*

そして、目が覚めました。

あの姉妹を今日見たら、夢の内容を思い出しそうで嫌ですな。

## 第九感の使い手ちかつち

明日は千歌ちゃんの誕生日、ワクワクしながら眠ったのでありまして。

\*\*\*

千歌ちゃんの部屋で私たちは、グダグダしていました。

「曜ちゃん、第六感って分かる?」

「霊感?」

「せいかーい、じゃあ、第七感!」

「そんなのあるの?」

「知らないなんて、ダメだなあ曜ちゃん。小宇宙だよ小宇宙」

千歌ちゃんが、ぶーつとほおを膨らまして私を非難するであります。小宇宙コスモってなんじゃ。いや、知ってるけども。聖闘士の力の源って知ってるけども。なに、何言ってるんの千歌ちゃん。

「曜ちゃん、第七感っていうくらいだから、感じるんだよ。君の心の小宇宙を。抱きしめて、熱く燃やして、奇跡を起こすんだよ」

マジで何言ってるんだこのミカソ。

「じゃあ千歌ちゃんは、小宇宙コスモを感じたことがあるの?」

「当然。第八感を見るがいい!はああああ!!」

「七って言わなかった!」

「むっ!?何っ……!この第八感……ツ……深い!!ズボボボボオツ  
!ツツボボボオオツ!!」

「突然どうした!」

「曜ちゃツ……助けズボボボボオツ!!私は………ボボボオツ!私はまだ、死にたくない!!!」

「千歌ちゃーん!」

千歌ちゃんがなんか一人で楽しそうに盛り上がって、地上で溺れ死んだであります。

「千歌ちゃん！それは冗談キツイよ、千歌ちゃんーん!!」

「ただいま曜ちゃん！」

「ぎゃーっ生きてた!？」

突然目を見開いて起きる千歌ちゃん。ぐぬぬ、心配させやがって、こちらら半泣きであります！

ヘラヘラしてるし、ムカつくであります!!

「聖闘士的に第八感は冥界への扉だからね、ちよつくら死んで行つてきたよー」

死んで冥界に行くなよ！

「あとね、曜ちゃん。第九感って知ってる？」

なんでありますかそれは。

「み感」

「今度こそふざけてる！」

「マジだよ曜ちゃん！」

ぷーっ、とほおを膨らませてミカンみたいになる呑気な千歌ちゃん。超常現象が連続しているので、私はかなりパニックであります

が。

「じゃあやって！み感やってみろやあ！」

「疑ってるね曜ちゃん」

「疑うわそりや！」

「じゃあ見せてあげよう……み感の力を！」

ふっと、トロンとした目になる千歌ちゃん。側にある小石を拾って、なんかかじり始めたであります！えええええ、何をしている!？」

「うわあい、この世界がみかんに見えるぞお、ガリガリ」

「バカチカってレベルじゃねええええ!？」

「そんなことより五千兆みかん欲しい」

「そんなのないんですけど!？」



とつとつハグヤロー

真夏のホラーであります

\*\*\*

とつとつ爆走

ハグヤロー

すみっこ爆走

ハグヤロー

大好きなのは

鞠莉を鯖折り

——— なんてありますか、このヤバい歌は。どこからともなく聴こえてくるであります！心当たりはありますけどね！

「やっぱりー、ハグるよハグヤロー………おはよう曜ちゃん」

「やっぱり果南ちゃんだ！やっぱり果南ちゃんだ！」

「二回言うとは」

「大事なことだからね！」

「まあいいや、聞いてよ」

「なにかあるの？」

「最近、プロレス鑑賞にハマってねー、素晴らしい技だなんて思って」

まさか

「そ、それは何かな」









真夏の怪談に、千歌ちゃんに話そうと思います。

## クール千歌

鞠莉ちゃんが部室に、一つ、千歌ちゃんによく似た、膝の丈ほどの小ささのメカ人形を置きました。その名もクール千歌。なんでも、最新鋭の学習機構を積んだAIらしく、適宜正確な応答を出せるそう。早速、初日から使用者が続出であります。

おや、花丸ちゃんが血相を変えて飛び込んできました。何事だろう。

「千歌ちゃん千歌ちゃん!! 大変だよお!! ルビィちゃんが飴を床に落として割ってがん萎えしてるぞらー!!」「我が心に一点の曇りなし……飴が正義だ……去るがいい……!」ってキャラ崩壊しながら図書室に籠ってるぞらー!! あれは心が曇天に腐りきってるゲロ以下の臭いがプンプンするぞらー!!!」

長いしメツチャ暴言なんですけど!! こんな子だっけ花丸ちゃんて!?

私のツツコミでは最早役不足!!

しかし、ここは『クール千歌』こと千歌ちゃんメカ。最新鋭の技術は伊達じゃない!

「なあーにいいー!!? やっちまったナーー!!」

目を赤く光らせて、絶叫するのはクール千歌。なんでも、音声は千歌ちゃん本人がアフレコしたらしく……よく引き受けたなあ。

しかひ! あ、噛んだ。しかし! この後、花丸ちゃんは自ら考えた答えをクール千歌に言わなければならぬのであります! 正解するか、逃げ出すまで、クール千歌は同じセリフを言いつづけるのであります。地獄! 圧倒的責め苦!! 花丸ちゃんは果たして耐えられるのか!?

製作を指揮した鞠莉ちゃん曰く「答えは自分で見つけた方が勉強に

なりまーす!!」だそうで……。

「じゃあ、花丸ちゃんは黙って!？」

「ル、ルビイちゃんのそばにいる!」

「ブブブツツですわああwww」

「ずらあ……」

あ、煽ったであります!

製作を指揮した鞠莉ちゃん曰く「煽ることで負けん気を沸かせます!!」だそうです。ダイヤさんに聴かれても私は知らないからね!? それにしても、ムツとした花丸ちゃんの表情も可愛いですなあ。

「花丸ちゃんは黙って!？」

「飴玉あげる!!」

「惜しい!そこまできといて答え出ないとかバカなの!?あ、バカだったww」

「な、ななな、なにを言うズラアーーーーツ!!!許さん!!!」

激しく煽るクール千歌。ついに憤怒の花丸ちゃん、意外と煽り耐性が無いところも可愛い。

「花丸ちゃんは黙れ!」

あ、暴言。

「もういいはずらこのバカロボット!! 飴玉買ってくるズラアーーーーツツツ!!!」

「それ正解!!あげるんじゃないくて、買ってくる!!!」

「細かいズラアーーーーツツツ!!というかパシリズラアーーーーツツツ!!!ズラアーーーーツツツ!!!」

こうして花丸ちゃんは、いつになく激しいダイナミズム的な、なん



